



ケビン・コスナーか、ロビン・フッドか? 英雄はひとつの時代に、たったひとりのみ。

重々と木が生い茂る森の中。シャーウッドの森が生んだ12世紀最大の英雄は、この地で偉大なる神話をつくりあげた。ロビン・フッド伝説。800年もの間、世界中の人々の心を捕らえ、どんな時代にでも希望のシンボルとなってきたこの伝説上の人物を、ケビン・コスナーが演じるというから話題には事欠かない。

「フィールド・オブ・ドリームス」でアメ リカの夢を、「ダンス・ウィズ・ウルブズ」で アメリカの良心を伝えることに成功した彼が、 今度は人間のもつ根本的な欲望や欺瞞とどう 戦うかを〈ロビン・フッド〉という英雄の姿 をかりて鮮烈にあぶりだし、壮大な絵巻物に 仕上げた。また、メリー・エリザベス・マス トラントニオ演じるマリアンとの激しい愛に 翻弄されるロビンを、英雄という視点だけか らでなく、一人の人間の視点から演じ、新た なロビン・フッド像を造りあげることにも成 功。永遠に続くかと思われるシャーウッドの 森で自然と共存しつつ、人間としての誇りも 忘れなかった〈ロビン・フッド〉にケビンが どこまで肉迫するか、あるいは逆にケビンが この英雄を取り込むのか、いずれにしても彼 のキャリアに、そして映画史上に新たな1ペ ージが書き加えられたことは間違いない。

12世紀の彼方までケビンと共にワープする。そんな疑似体験をさせてくれる演出に拍手/

解き放たれた矢の動き、そして大砲から飛び出す弾薬――。ケビン・コスナーの魅力もさることながら、今回特筆すべきなのは、監督ケビン・レイノルズの演出。彼は映像の中で動きあるものに、生命を吹き込んだ。その臨場感あふれる映像はちょっと類をみない。矢にカメラがついているかのような、スピーディな画面。そんな映像が飛び出すたびに、背中をゾクゾクするような快感が走る。ちょうど、ジェットコースターに乗っているかのよう。そんな緩急おり混ぜた映像が壮大な森を次々に写しとっていき、稀にみる美しい映画を完成させた。

また、脇を固める俳優陣もなかなかすごい。「ドライビング・ミス・デイジー」のモーガン・フリーマン、「ダイ・ハード」の悪役を演じたアラン・リックマン、「ハスラー2」「アビス」のメリー・エリザベス・マストラントニオ、「薔薇の名前」「ヤングガン2」のクリスチャー・スレーター、という名優ぞろい。スーパー・エンターテイメントである本編にさらに磨きをかけている。

7 ◆前売券好評発売中◆ 一般券¥1,300 高中券¥1,100 ペア券 ¥2,300

19日金片夏休みロードショー!



